

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここわ保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】 日本語と英語の絵本をそれぞれ読み聞かせしながら、自分たちの話すことば、またその違いについて問いかけ、気づきを拾っていく。その気づきに合わせ、それにつながる絵本や歌、関連する生活の中の素材を環境として設定する。その中から物の名前だけでなくコミュニケーションや表現のことばに興味関心を抱き、英語、日本語だけでなく擬音語等も含め、様々探究していく。また自ら関わる楽しさや知る喜びを感じられるようにする。

<テーマの設定理由>

当園が継続して行っている保育活動の中の英語を生かしながら、そこから普段使っている日本語も含め【ことば】について興味関心を深め、いろいろなことばに触れる楽しさを感じ、表現したりコミュニケーションを取ったりすることが豊かなっていくようにするため。

2. 活動スケジュール

2024年 8月29日 15:30～(20分ほど) (木) 1歳児室 6名参加

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

日本語版「はらぺこあおむし」絵本読み聞かせ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

絵本を見ようと子どもたちを誘い、「はらぺこあおむし」を読み聞かせを行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

まず題名を読むと聞き取れないがことばを発する子がいた（「なに〜かな？」）

読み始めると絵本を良く見ており、手をぶらぶらと楽しさを表す様子あり。「おなかはぺっこぺこ」の後に、手を伸ばして「あむあむ」と食べる仕草をする子もいた。まだことばの少ない子は、少しぐずる声を上げながらも、時々視線を絵本に向けていた。

高月齢児が土曜日の食べ物がたくさん出てくる場面で、急に立ち上がり、絵を指さし何やら言う。またその後も保育士が食べ物の名前を言っていくと、真似をして一緒に単語を言う様子あり。しっかりした発音にはなっていないが、保育士の話し方を真似て抑揚のある言い方をする。（「スイカですって！」と言っていることがわかる）

「もうあおむしははらぺこじゃなくなりました」でも絵本に指さしをし、「いない、いない」と言い、保育士が「いないね」と返してあげると、納得したように席に戻る。その後も、「〜じゃない？」のようなことばを言うことあり。蝶々が出て来るページのでは、すでに手で蝶々の形を作って「バイバイ、バイバイ」と他の保育者に手の蝶々を見せに来る。別の子も絵本を指さし、他の保育者に伝えようと笑顔で視線を送ってくる。

また終わると「もう一回読む」とリクエストをする子がいた。保育士が歌いながら見せると、歌のメロディーに合わせて声を出す子や、言えるところだけ一章節だけ歌ったり、ダンスのように踊り出す子もいた。「火曜日」の「び〜」など単語の語尾を言ったり、手足を動かして表現する子、絵本に触ろうとする子などいた。終わりでは一人が蝶のように腕をひらひらさせ、「バイバイ〜」と手を振る。

歌の方が声が出ることが多い。絵本の内容を良く知り、思ったことを言う様子も見られて、自分なりの表現で伝えようとする様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

通常、既存の音源に合わせてみる人が多いので、音楽内読み聞かせに注意を向けている姿があった。ペースも子どもの反応を見ながら進めていった分、それぞれの子どもが自己表現を多く見せていたように感じた。

個が他の反応に影響を受け易くもあることも感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここわ保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目 5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】 日本語と英語の絵本をそれぞれ読み聞かせしながら、自分たちの話すことば、またその違いについて問いかけ、気づきを拾っていく。その気づきに合わせ、それにつながる絵本や歌、関連する生活の中の素材を環境として設定する。その中から物の名前だけでなくコミュニケーションや表現のことばに興味関心を抱き、英語、日本語だけでなく擬音語等も含め、様々探究していく。また自ら関わる楽しさや知る喜びを感じられるようにする。

<テーマの設定理由>

当園が継続して行っている保育活動の中の英語を生かしながら、そこから普段使っている日本語も含め【ことば】について興味関心を深め、いろいろなことばに触れる楽しさを感じ、表現したりコミュニケーションを取ったりすることが豊かなになっていくようにするため。

2. 活動スケジュール

2024年10月25日(金) 11:00～(20分ほど) 1歳児室 5名参加

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

エリック・カール「できるかな」日本語版読み聞かせ
アプリケ、パペット、英語の絵本、その他玩具等で遊ぶ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「できるかな」を読み聞かせ

設置した玩具を使い遊ぶ。一緒に遊びながら会話をしながら見守る

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

まず保育者が「できるかな」の絵本を読み聞かせをする。

まず表紙を見て、「ゴリラ」といいながら、胸を叩く仕草をしてみる子がいた。読みだすと、それぞれじっと見たり、保育者の動きをまねたり、知っている動物を言ったりしていた。「できる？」という保育者の問いかけには、「できる」と答えていた。皆、座って聞いていたが、1名最後に興味を失ったようで「おしまい」と言って席を立つこともあり。

設置していたパペットを示すとすぐに興味を持ち、それぞれが好きな動物パペットを手取る。動かしてみたり、抱いて楽しむ様子あり。保育者がゾウのパペットを動かしながら「できるかな」の歌を歌うと、歌に合わせて体を動かす子もいた。

その後、並べたアップリケを示し、これは何かと問うと、表側になった果物を見つけ「りんご」と言う。裏返しのもは何か等と「わからない」と答える子もいた。裏返しのもをめぐってみせると、次からは自らめくり出し、「バナナ」「メロン」など発言している。

アップリケが何か問いかけると「アイス」「たまご」など答える。食べ物と分って、パペットに食べさせる真似をする子がいた。それを見て、同じようにアップリケをパペット口に持って行って食べさせる子もいた。

積木の中の太陽の絵を見せ、英語の単語を問うが、それには興味を示さず、答えずにいた。

ひと通り遊ぶと自ら遊びをおしまいにする子もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

読み聞かせをし始めると集中していたのは、やはり人数が少ないことも必あると思う。保育者が動物の動きに合わせて体を動かすと、子どもたちも少し手足を動かすので、ことばにしろ動きにしろ一緒にやってみることが、子どもたちの興味、発語を引き出す上では改めて大事だと思った。高月齢児はその場に適した語彙も増えており、知っている英語も自ら発しているため、しっかり聞き取り受け止めていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここわ保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】 日本語と英語の絵本をそれぞれ読み聞かせしながら、自分たちの話すことば、またその違いについて問いかけ、気づきを拾っていく。その気づきに合わせ、それにつながる絵本や歌、関連する生活の中の素材を環境として設定する。その中から物の名前だけでなくコミュニケーションや表現のことばに興味関心を抱き、英語、日本語だけでなく擬音語等も含め、様々探究していく。また自ら関わる楽しさや知る喜びを感じられるようにする。

<テーマの設定理由>

当園が継続して行っている保育活動の中の英語を生かしながら、そこから普段使っている日本語も含め【ことば】について興味関心を深め、いろいろなことばに触れる楽しさを感じ、表現したりコミュニケーションを取ったりすることが豊かなっていくようにするため。

2. 活動スケジュール

2024年11月29日（金）11:00～（20分ほど）1歳児室 5名参加

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

エリックカール絵本（できるかな・げつようびはなにたべる）
パペット、アプリケ、イングリッシュカードを部屋の中に配置する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

初めに玩具や様々な素材を部屋の隅に配置する。子どもたちが自由に手に取り遊びだす様子を保育者は見守る。子どもからの疑問等に応答しながら、子どもにも名称や遊び方を問いかけていく。「できるかな」も読み聞かせをする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

前回も使っているパペット、アップリケをみると、使いたい、やりたい気持ちを声や仕草で伝えて来ていた。絵本やイングリッシュカードも並べると、イングリッシュカードを使おうとする様子もあり。しかし、カードが多かったこと、大きかったことから知っている絵を見て、また手から離している。主にアップリケやパペットに手を出して、動物の名前を言ったり、「かわいい」と顔に寄せたり抱き寄せる様子があった。食べ物のアップリケは手にして、パペットの口に運んで食べさせるようにして遊びだしている。

「これは？」と問いつついちごのアップリケを手渡すと、口に運んで「むしゃむしゃ」と擬音で表現する子もいた。

保育者がイングリッシュカードを見せながら、どのアップリケと同じか問うと、同じものを選ぶことができる子もいた。何か問うと、果物の名前を答えることもできていた。

また絵本を見つけて、保育者に読んでほしいと伝える子もいて、保育者が「げつようびはなにたべる」を読んであげている。じっくり見たり、読んでいる言葉を聞き、楽しむ様子があった。

まだまだ低月齢児はことばを発する場面が少ないものの、物には興味を示し、手に取り、名前を言ってもらおうとする要求の仕草も見られた。これは何か、なんという名前か知りたいという意欲は見られていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

前回の設定に加え、イングリッシュカードをプラスしてみたが、英語の活動で使っている物なので一瞬手には取っていたが興味を失う様子を見ると、カードの大きさや数も影響していたと思う。1歳児の手に取れる大きさ、イラスト等がすぐ目に入るサイズのものが良かったと思った。

遊ぶ玩具が年齢や発達に沿う物であれば、保育者が改めて示さなくても自然に興味をもって手に取り、自分の知っている言葉を使いながら遊び出していくことが、今回も見てとれた。興味をもって楽しいと感じると、保育者とのやり取りにも期待感をもって遊んでいることがわかった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここわ保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】 日本語と英語の絵本をそれぞれ読み聞かせしながら、自分たちの話すことば、またその違いについて問いかけ、気づきを拾っていく。その気づきに合わせ、それにつながる絵本や歌、関連する生活の中の素材を環境として設定する。その中から物の名前だけでなくコミュニケーションや表現のことばに興味関心を抱き、英語、日本語だけでなく擬音語等も含め、様々探究していく。また自ら関わる楽しさや知る喜びを感じられるようにする。

<テーマの設定理由>

当園が継続して行っている保育活動の中の英語を生かしながら、そこから普段使っている日本語も含め【ことば】について興味関心を深め、いろいろなことばに触れる楽しさを感じ、表現したりコミュニケーションを取ったりすることが豊かなっていくようにするため。

2. 活動スケジュール

2024年11月29日（金）11:20～（20分ほど）1歳児室 5名参加

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

エリックカール絵本（できるかな・げつようびはなにたべる）、パペット、アプリケ、イングリッシュカードを部屋内に置き、遊びを始める。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

初めに玩具や様々な素材を部屋の隅に配置する。子どもたちが自由に手に取り遊びだす様子を保育者は見守る。子どもからの疑問等に応答しながら、子どもにも名称や遊び方を問いかけていく。「できるかな」も読み聞かせをする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

②グループめの子の中には、①グループ同様にパペット、アプリケを並べると、遊びたいと声や仕草で強く訴える様子があった。

ことばを良く発する子は、積極的に並べているイングリッシュカードから知っている絵を選んで、絵の名称（くるま、ちょうちょ、りんご等々）を言う。またアプリケにも興味を示し、手に取っては「さかな」「ばなな」「いちご」などまだ明瞭ではない発音ではあるが、自分は知っている、言えることをアピールする姿が見られた。さらに目玉焼きのアプリケを保育者に見せ、これは何という？の仕草をしてくる。「たまご」と教えると、「・・ご」と発音し、満足そうに次のアプリケに手を伸ばしていた。知りたい、言いたい意欲が感じられた。

高月齢児とは保育者がイングリッシュカードを見せながらやり取りする。同じアプリケはどれか問うと同じものを選び、名称を聞くと「オレンジ」「アイスクリーム」などほぼ答えることができていた。色のイングリッシュカードを見せると、「グリーン」「パープル」など英語を交えながら様々な色を答えていた。高月齢の子が揃うと、ことばも良く発して、「（えほん）よんで」「（どうぶつ）つかいたい」など自分の希望や要求を伝えていた。読み聞かせには喜んで、じっくり見る姿あり。

低月齢児も自分の知っているアプリケやカードを選び、名称を発して一人遊びしたり、他には何があるのか見て歩いたりする様子が見られた。

あまり参加の意欲が薄かった子もいたが、一人は近づいてきて、カードを示すと日頃英語のレッスン時に行っているタッチをしてみせ、興味を示していた。

1名は今日は全く参加の意欲なし。参加せず。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

一度遊んで楽しいと感じた遊びは良く覚えており、積極的であった。単純な玩具の設定でも、楽しかったものをまたやろうとする意欲が見られている。そこから知りたい、言いたいという思いも伝わってきて、保育者との応答も楽しめていたと思う。ことばの引き出しにはやはり保育者も楽しい感覚で応答することが大事だと思った。本日、興味を持てなかった子は、本当は何で遊びたかったのか、また楽しい感覚がないと声も出ない状態になってしまうこともあり、日頃楽しく遊んでいる玩具、状況などをヒントに考えてみたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここわ保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】。日本語と英語の絵本をそれぞれ読み聞かせしながら、自分たちの話すことば、またその違いについて問いかけ、気づきを拾っていく。その気づきに合わせ、それにつながる絵本や歌、関連する生活の中の素材を環境として設定する。その中から物の名前だけでなくコミュニケーションや表現のことばに興味関心を抱き、英語、日本語だけでなく擬音語等も含め、様々探究していく。また自ら関わる楽しさや知る喜びを感じられるようにする。

<テーマの設定理由>

当園が継続して行っている保育活動の中の英語を生かしながら、そこから普段使っている日本語も含め【ことば】について興味関心を深め、いろいろなことばに触れる楽しさを感じ、表現したりコミュニケーションを取ったりすることが豊かなっていくようにするため。

2. 活動スケジュール

2025年1月10日（金）16:00～（30分ほど）1歳児室 5名参加

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

絵カード2種類（ことばカード・動物カード）数の絵本

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

絵カードを出して、見てみようとする。カードを見せながら、子どもに絵（ものや動物）をしているか問いかける。ことばの答え合わせをしながら、知らないものは教えたり、知っている者も復唱したりして保育者と一緒に楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育者がひらがな絵カードと動物カード等を持って1歳児室に入ると、すぐカードに目をむけて2、3名が近寄ってくる。使って遊ぶか問うと、使うとの返答をする。動物カードは4束に分けていたため、それぞれが持って絵を見始める。またひらがなカードも何枚かずつ使う。数絵本はさっそく手に取り、自分で開いて絵を見始める。

動物カードは絵を見るなり、知っている動物を言い始める。また『これなに?』と問いかけると、「ペンギン」「きりん」「らいおん」「いぬ」「ねこ」など話している。知っているものは言い、知らないは「これ(は)?」と問いかけてくる。「とかげ」「かんがるー」など教えると、復唱していた。またリンゴは「apple」と答える子もいた。保育者も英語の発音で「penguin」など言うと、発音は同じではないが「ペンギン」と復唱する子もいた。

また絵カードを何枚も持っている子には、「それなに?」と聞くと知っている単語は答え、知らないものは「なに?」と問い返してくる。絵カードと同じ絵の小冊子もあったので、それを見ながら同様のやり取りをする。動物についてはまだ泣き声（ニャーニャー、ワンワン）で答えることもあり。またつばの広い帽子を被っているをみて「ヘルメット」と答える子もいた。数については絵本の絵をみて数を数えようとする子もいたが、まだ絵を楽しむ様子であった。

また部屋にあるレゴブロックの中からキリンを持って来て、絵と見比べながら同じことを仕草で伝える。「同じだね」と返すと「おなじ」と何度か繰り返して言う。さらにゾウも同じものがあることに気づき、探して持ってくる。

色なども知っている色も多く、「どの色がすき?」にも高月齢の子たちは答えていた。

絵カード、数絵本、小冊子やあいうえお表（絵をみる）をそれぞれがひと通り見終わると、またまま



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回は今まで使ったことのない絵カードや数絵本を準備したところ、非常に興味を示し、まず提示する前に行動で使いたいことがわかった状態。多少動きの多い特徴はあるが言葉が良く出ている子は、じっくりと座ってカードを見ながら名称を発していた。集中して見たりことばを発したりする様子がとても楽しそうであった。また帽子をヘルメットと答えた子がいて、自分の生活に馴染んでいるものに結び付けており、生活の中のことばの大切さを感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここわ保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】。日本語と英語の絵本をそれぞれ読み聞かせしながら、自分たちの話すことば、またその違いについて問いかけ、気づきを拾っていく。その気づきに合わせ、それにつながる絵本や歌、関連する生活の中の素材を環境として設定する。その中から物の名前だけでなくコミュニケーションや表現のことばに興味関心を抱き、英語、日本語だけでなく擬音語等も含め、様々探究していく。また自ら関わる楽しさや知る喜びを感じられるようにする。

<テーマの設定理由>

当園が継続して行っている保育活動の中の英語を生かしながら、そこから普段使っている日本語も含め【ことば】について興味関心を深め、いろいろなことばに触れる楽しさを感じ、表現したりコミュニケーションを取ったりすることが豊かなっていくようにするため。

2. 活動スケジュール

2025年2月14日（金） 16:00～（30分ほど） 1歳児室 7名参加

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

おめんブック・動物絵カード・ことば絵本

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

おめんブックや絵カードを部屋の中やテーブルに広げる。保育者はそばで見守りながら、子どもが手に取り発したことばに合わせてやり取りをしたり、絵や写真をみながら問いかけたりしていく。子どもの言動に合わせて関わっていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

部屋におめんブックや動物絵カード、絵本を並べておく。何回かやってきた活動なので、すでに絵カードやことば絵本など見るものがあることに気づいており、何を見るかと問いかけると、興味を持って絵本やカードを手にとっている。自分は「これみる」と言いながら手にする。

動物絵カードを手にした子は、「とらだよ」と似ているひょうのカードを見せてくる。何枚かめくっては、知っている動物の名前を言う。それに保育士者も応じている。

おめんブックは、開いてみて、動物の絵を見ながら名前を言っていた。何かわからない様子の時は、名前を言ってあげると、そのまま復唱するように動物名を言っていた。保育者がおめんにしてみせると使い方がわかったようで、顔に当てて、その動物の鳴きまねをする子もいた。保育者に見せに来るので、保育者もやってみせると、喜んでる姿があった。

絵本に興味を示した子は、ひとりで膝にのせながらページをめくっては、知っている物を指さしながら独り言のようにつぶやいていた。また皆で見ている場面では、一人が指さして名前を言うと、他の子も同じように指を当てながら、同じようにことばにしていた。次々とページを開いては、知っている物を探して、好きな物が見つかる喜びで何度も名前を言う姿もあった。カタツムリの写真を見ながら、何か問うが、名前が子どもたちからは出てこず。名前を教え、保育者がでんでんむしの歌を歌うと、手でカタツムリの形（グーとチョコキ）を作ってみせに来ている。

1名だけ絵本もカードも手に取らない子もいた。他児の様子、保育者の様子を見ている。ただ、アンパンマンの歌を歌うと興味を示し、歌った保育者にアンパンマンを見にママといった等、話して教える場面があった。

ことば遊びの活動も終わるとし、片づけ始めると、ひとりの子が楽しかったことで名残おしいのか泣き出す様子が見られた。また今度やろうねと声を掛けると、片づけた職員に手を振る。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

動物絵カードとまた今まで使ったことのない玩具的な要素のあるおめんブック、さらに図鑑的な写真やイラスト絵本を準備したが、やはり玩具的な要素が強いものには興味ががひかれるようだった。顔につけてみせると、喜んで真似をして楽しんでおり、動物名、鳴きまねなど引き出されやすいように思った。ことば（声）でのやりとりのきっかけになる。

ことば遊びには興味を示さない子も歌には俄然興味を示す様子や、手遊び歌と連動して覚えている子もいたことは、環境の中には保育者の歌や手遊び、音楽やリトミックも関連していると思った。